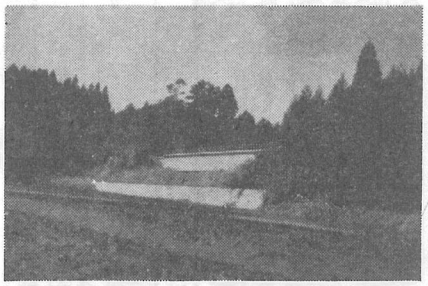
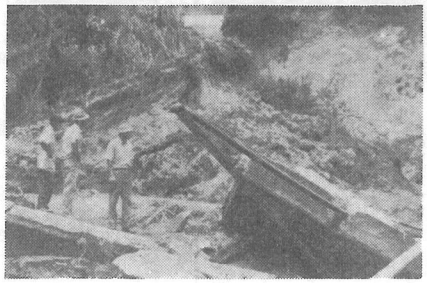
十年一昔（その四）

＝両総用水と長倉界隈＝





「随分でっけえ鉄管だなあ」「あの中さ随分水道パイプが入っべな」「いや、あれはサイホンと言うもので、あの中さ、いっぺい水を通すんだってよ」取立の辺りから突き抜けて、丁度、山や谷を渡る大蛇の様に丘から田圃へと、延々と続く両総用水のサイホンは、今まで堀割式の用水路を見なれていた地元の人々に驚異の目を見張らせたものでした。サイホンの施設工事が終り、第一号揚水機が始動したのは昭和二十七年のことです。そして三十年に二基、三十九年に二基と都合四基の揚水機が完成し、これが順調に運転を続けている今日に至るまでは、工事関係者の殉職があったり、隧道やサイホンにもぐって夕方になっても帰宅しないで、親達の頭を抱えさせる子供さんが現われる等、いろいろな苦労や想い出もありました。こんなこともありました。それは昭和四十二年、田植えが殆んど終った頃のある朝のことでした。長倉の伊藤尚明さんの奥さんは、気にかかっていた田植えも終り、昨晩は割合に早く眠った故か、その朝四時頃には目がさめてしまいました。丁度家の前辺りから遙か向うの山裾までの一面の田圃は、丁度、緑の絨氈を敷きつめたように美しく展がっていました。――それは、いつも眺める風景でしたが、しかし、今朝は少し異がっているのです。サイホンの通っている辺りに何か白い物が見えて、それが次第に大きくなっているように見えるのです。それに、気のせいか変な物音も聞えてくるようです。「何だろう」という好気心が「サイホンの決壊――」と気付いた時は、さすが足がすくんでしまったということです。その時の模様を、当時の**広報よこしば**は次の様に報じています。「もし発見が十分遅れたら用水路は更に数十メートル決壊し、その被害も数倍になったであろう」と県の係員も言っていたが、此の発見と機転の功労者は、長倉一、一〇四、伊藤尚明さんの妻とよ子さん（三〇）であるという。とよ子さん談「四時を一寸とまわっていましたが、庭に居ると堤の方で変な音がして、山裾が白く見えました。これは大変だと思い家の者を起こし近所の人にも知らせましたが、只夢中でした。近所の方々の協力と、機場のスイッチを切ってくれた人の手柄で、私の手柄ではありません」大要は以上の通りのものでした。写真下は、その時の模様ですが、その後、国や県の援護もあり、町や地元の努力が実り、写真上の様な立派な用水築堤が出来あがりました。歳月は過ぎ、築堤の下で万能を振う農家の主婦の姿には、米の減反旋風を外に働く者の喜びが溢れているようです。

×　×

農業労賃きまる

農業労働賃金の標準額が、郡内農業委員長会議で次のように決定しました。

	男	女
田植	1,700	1,700
水田除草	1,400	1,400
稲刈	1,700	1,700
畑作業	1,300	1,300
果樹収穫	1,300	1,300
水田耕起及び代かき	(10a) 1,900	
機械刈取	(10a) 3,000	

（注）8時間労働で昼食つき

警察官募集

◇採　用　八月の予定
◇募集人員　百名
◇受験資格　昭和十八年八月二日から昭和二十七年八月一日までに生れた男子、学歴は別に問わず。
◇試験日　昭和四十五年六月七日（日曜日）
◇試験地　千葉市、松戸市、佐原市、八日市場市、茂原市、木更津市
詳細は最寄りの警察署又は派出所へ

第四表

昭和45年度横芝町老人ホーム特別会計

歳入　（単位千円）

款	本年度	前年度	比較
1 老人ホーム	12,505	11,083	1,422
2 葬祭費	9	9	0
合計	12,514	11,092	1,422

歳出　（単位千円）

款	本年度	前年度	比較
1 老人ホーム	12,475	11,053	1,422
2 葬祭費	9	9	0
3 予備費	30	30	0
合計	12 514	11,092	1,422

第三表

昭和45年度横芝町有線放送電話特別会計

歳入　（単位千円）

款	本年度	前年度	比較
1 使用料及び手数料	9,624	9,627	△ 3
2 分担金及び負担金	205	133	72
3 繰入金	1,300	1,200	100
4 繰越金	900	150	750
5 諸収入	172	127	45
合計	12,201	11,237	964

歳出　（単位千円）

款	本年度	前年度	比較
1 総務費	9,644	8,501	1,143
2 積立金	500	600	△ 100
3 公債費	1,787	1,886	△ 99
4 予備費	270	250	20
合計	12 201	11,237	964